

KARATE



沖縄空手 大演武会

Okinawa karate
Daienbukai

2019

沖縄を発祥の地とする空手 そこへ繋がる空手家達が集結

平成31年2月24日 日

入場
無料

13:00 開会

13:30 一般演武

14:30 模範演武

時間 13:00~16:00

会場 丸の内 KITTE アトリウム
千代田区丸の内2-7-2 一階アトリウム

沖縄空手とは

About karate

沖縄空手～世界に誇る伝統文化

独自の歴史と文化に育まれた高度な技法と精神性

Okinawan Karate – World-class traditional culture.

High-level techniques and spirituality fostered in Okinawa's own history and culture.



沖縄で生まれた空手の歴史 History of karate, which was born in Okinawa

空手発祥の起源についてはさまざまな説がありますが、琉球王国の士族が教養として学んだ護身術がそのルーツであるとされています。1719年に来琉した冊封副使の徐葆光が、1721年に著した『中山伝信録』という本の中で「拳頭打(テイイチクン)」という琉球語を紹介しています。これは現在の「ティヂクン(正拳)」と考えられ、この頃には「ティヂクン」を使用する「手(ティ)」という武術が誕生していたことが推測されています。

また歴史書『球陽』の中にも18世紀初期には棒術などが地方に伝播していたことが紹介されています。「手(ティ)」はやがて「マキワラ」などの鍛練具による独特の鍛練法や素手による護身の武術、棒・サイなどの武具を使用する武術として「型」を生み出し、沖縄空手の世界を完成させ発展しました。

琉球王国時代に完成した空手は松村宗棍、東恩納寛量、松茂良興作などの努力により一層の発展を遂げます。さらに廃藩置県(1879年)後、糸洲安恒などの努力により広く学校教育や一般にも普及するようになりました。

There are various theories about the roots of karate, but it is said that karate was originally a martial art of self-defense practiced by the samurai class of the Ryukyu Kingdom as basic education. A Chinese deputy envoy, Xu Baoguang, visited Ryukyu in 1719, and introduced a Ryukyuan word “拳頭打(Teiichikun)” in the book “Chuzan denshin roku” which he wrote in 1721. This word is considered to be the current word “正拳(Tidikun)”. It is speculated that the martial arts called “手(ti)” using “Tidikun” was already born around this time.

A history book, “Kyuyo”, also introduced the fact that Bojutsu (stick fighting) had been propagated in a rural location in the early 18th century. Various kinds of “kata (forms)” were soon generated through “手(ti)”, including a unique training method using training tools such as “Makiwara”, a martial art of self-defense with bare hands, and a martial art which uses equipment such as Bo (stick) and Sai (piercing weapon). It completed and evolved the Okinawan Karate world. Karate, which was completed in the Ryukyu Kingdom, achieved further development through efforts made by Matsumura Sokon, Higashionna Kanryo, Matsumora Kosaku, and other predecessors. After Haihan-chiken (abolition of feudal domains and establishment of prefectures) in 1879, karate has been widely spread to school education and the general public through efforts made by Itosu Anko etc.

世界に広がる空手の原点 Origin of the spread of karate across the world

発祥の地沖縄から、多くの人々が、世界へ空手を伝えてきました。首里で空手家として知られた屋部憲通は1927年ロスアンゼルスからの帰途ハワイに立ち寄り、剛柔流を創始した宮城長順は1934年ハワイの新聞社「洋国時報社」の招待を受けハワイへ渡航し、空手を指導しました。太平洋戦争後、南米や北米に移住した空手家たちは沖縄在住の空手家と連携を保ちながら多くの門弟を育成しています。フランスやスペインなどヨーロッパに単身渡航し、血のにじむような努力を重ね、多くの門弟を育成している沖縄空手家もいます。また米軍統治下の沖縄で空手に魅了され、修業にまい進した米軍人・軍属の空手家が母国で積極的に普及している例もあります。1922年富名腰義珍が、東京で開催された第1回運動体育展覧会で空手を紹介するため上京。義珍はそのまま東京で居を構え、沖縄県学生寮であった「明正塾」で空手の普及に全精力を傾けます。その後、関西でも摩文仁賢和、宮城長順などが普及を開始。富名腰の指導した空手は松濤館流として、摩文仁系統は糸東流として花開き、世界に羽ばたいています。

日本の四大流派といわれている松濤館流、糸東流、剛柔流、和道流(大塚博紀開祖)をはじめ、戦後、急速に世界へ普及・発展した空手の原点は沖縄にあるのです。

Karate has been handed down by many people from the birthplace Okinawa to all over the world. Yabu Kentsu, known as a karate practitioner in Shuri, stopped in Hawaii on his way back to Japan from Los Angeles in 1927, while Miyagi Chōjun, a pioneer of Goju-ryu, travelled to Hawaii when he was invited by a Hawaiian newspaper company, “Yokoku Jiho Sha”, in 1934. Both taught karate there. After the Pacific War, those karate practitioners who moved to South America or North America have trained many disciples maintaining coordination with karate practitioners living in Okinawa. Some of them traveled alone to Europe, to countries such as France or Spain, and worked hard to train many disciples. There is also a case where US soldiers and civilians were fascinated by karate in Okinawa under US military reign, trained and strived to spread karate in their home country.

In 1922, Funakoshi Gichin moved to Tokyo to introduce karate in the 1st Sports Athletics Exhibition held in Tokyo. Gichin settled in Tokyo and put all of his energy into spreading karate at “Meishojuku” which was the Okinawa Prefecture student dormitory. Then, in Kansai, Mabuni Kenwa, Miyagi Chōjun and others also started to spread karate. The karate form taught by Funakoshi flourished as Shotokan-ryu, while another form taught by Mabuni flourished as Shito-ryu. Both have spread around the world.

After the war, karate, including the so-called “four major schools” consisting of Shotokan-ryu, Shito-ryu, Goju-ryu, and Wado-ryu (founded by Otsuka Hironori) rapidly spread and developed all over the world, originating from Okinawa.

No.	演武者名	流派	段位	型
1	佐々木 悠次	少林流聖武館	二段	パッサイ
2	大澤 純子	琉球古武道保存会	二段	周氏の棍(大)
3	渡慶次 憲夫	剛柔流	三段	四向鎮(シソーチン)
4	手嶋 泰子	少林流	三段	周氏の棍 ※又吉系
5	後藤 佳輔	少林流聖武館	三段	セイサン
6	常田 有作	琉球古武道保存会	四段	浜比嘉の釵
7	日高 由季	少林寺流	四段	北谷屋良のサイ
8	夏野 大介(師範五段)	琉球古武道信武館	夏野 大介 (師範五段)	前里の鉄甲
	嶺 孝美(師範五段)			
	阿部 優樹(二段)			
	田中 久美子(初段)			
	伊藤 博良(初段)			
	北原 ななみ(一級)			
辻村 穂花(三級)				
9	村上 実	剛柔流	四段	四向戦(分解)シソーチン
	若林 義昌			
10	富井 岳海	上地流	師範五段	完戦(カンチン)
11	桐井 公仁	琉球古武道信武館	師範五段	棒対サイの組手
	調 康孝			
12	ジョセフ タイト	剛柔流	六段	十八手(セーパイ)
13	新垣 昭善(教士七段)	上地流	新垣 昭善 (教士七段)	団体演武 十戦(セーチン)
	古村 賢司(四段)			
	新垣 知昭(三段)			
	小川 俊幸(三段)			
	橋本 英樹(二段)			
	濱洲 幸一(二段)			
慈幸 大志(初段)				
14	新垣 昭善(教士七段)	上地流	新垣 昭善 (教士七段)	団体演武 十六(セーリユウ)
	古村 賢司(四段)			
	新垣 知昭(三段)			
	小川 俊幸(三段)			
	橋本 英樹(二段)			
	濱洲 幸一(二段)			
慈幸 大志(初段)				
15	坂井 克臣	小林流	六段	ジッテ(十手)

No.	演武者名	流派	段位	型
1	島袋 善俊	少林流	六段	チントウ
2	八木 一平	剛柔流	教士七段	十八手(セーパイ)
3	伊波 光忠	古武道	教士七段	佐久川の棍
4	宇良 宗太	小林流	二段	クーサンクー大
5	安里 寛龍	剛柔流	初段	久留頓破(クルルンファー)
6	比嘉 康雄	小林流	錬士六段	ソーチン(莊鎮)
7	平 武蔵	古武道	錬士六段	佐久川の棍(大)
8	八木 明人	剛柔流	教士八段	征遠鎮(セイエンチン)
9	與儀 克也	少林寺流	六段	五十四歩
10	新城 成博	上地流	教士八段	セーサン
11	蔵元 雅一	剛柔流	七段	十三手(セーサン)
12	比嘉 康雄、島袋 善俊、宇良 宗太	小(少)林流	—	約束組手、ナイファンチ
13	金城 政和、平 武蔵	古武道	—	棒対トンファーの約束組手
14	蔵元 雅一、安里 寛龍	剛柔流	—	靠基(カキエー)
15	大城 信子	小林流	教士八段	パッサイ大
16	親川 仁志	少林寺流	範士九段	徳嶺の棍
17	平良 貞行、八木 一平	剛柔流	—	一本組手
18	平良 貞行	剛柔流	教士八段	スーパーリンパイ
19	金城 政和	古武道	範士九段	津堅砂掛の棍
20	新城 清秀、新城 成博	上地流	—	三戦鍛え、試割り
21	新城 清秀	上地流	範士九段	カンチン
22	赤嶺 浩	古武道	範士九段	鐘川のティンペー
23	仲程 力	上地流	範士十段	サンセーリュウ



赤嶺 浩

Hiroshi Akamine

流派/古武道
空手歴/58年
段位/範士九段

演武予定 | 鐘川のティンベ

盾と鉾を称してティンベと呼ぶ、攻防は棒を想定して作られており、盾は棒や蹴りの受け、また、相手を押さえ付ける防御を主とし、鉾は刺しや切りの攻撃を主とする。ティンベは中国から伝わったとされている。中国では右手に青龍刀を持つがこの型は小槍を持つ。伝統的な型として現在この鐘川のティンベのみが保存継承されている。



安里 寛龍

Kanryu Asato

流派/剛柔流
空手歴/12年
段位/初段

演武予定 | 久留頓破(クルンファー)/根基(カキエ)

東恩納寛量が持ち帰った伝承型。
難易度の高い型で、開掌による手技の多様や、素速い連続技、関節技からの投げなど、変化に富んだ構成になっている。



伊波 光忠

Mitsutada Iha

流派/古武道
空手歴/42年
段位/教士七段

演武予定 | 佐久川の棍

現代の空手源流の一つである唐手(トウディー)の祖である。現代の空手の源流の一つである唐手(トウディー) 佐久川寛賀(さくがわかんが)は、唐手佐久川(トウディーさくがわ)と呼ばれておりました。身を守る沖縄独特の手(ティ)から、佐久川寛賀が中国人との交流を重ね編み出した、現在残っている数少ない古い棒術の一つです。「水鳥が沼から足抜くように、あらゆる場所を想定した「貫突き」の技や後方への飛び受けからの抑え受け等がこの型の見どころになっており、難易度の高い型となっております。



宇良 宗太

Sota Ura

流派/小林流
空手歴/16年
段位/二段

演武予定 | クーサンクー大/約束組手、ナイファンチ

首里手を代表する型の一つであり、小林流系の型では集大成とも言われている。
攻防動作が巧みに融合しているところに特徴があり、横蹴りや二段蹴りなどの豪快な技も醍醐味である。



大城 信子

Nobuko Oshiro

流派/小林流
空手歴/43年
段位/教士八段

演武予定 | パッサイ大

首里手系を代表する型の一つで、十文字の演武線を描く。この型には、多彩で高難易度の技が随所に組み込まれている。演武冒頭での遠い間合いを素早く詰めての添え手、中段受けを始めとして、中段抑え受けに連動した突き上げや、相手脇腹への双手挟み打ち、前後左右からの敵の攻撃に対応した受けの技法等は、この型独特のものである。



親川 仁志

Hitoshi Oyakawa

流派/少林寺流
空手歴/52年
段位/範士九段

演武予定 | 徳嶺の棍

江戸の末期から明治初期に、首里の棒術の名手として尊敬された武人に徳嶺親雲上がいた。徳嶺親雲上の棒術を直伝した慶田花宜佐を経て、喜屋武朝徳へ継承された棒術の型が「徳嶺の棍」である。現在、喜屋武朝徳師を道統にする首里手系の流派・少林寺流などにおいて「徳嶺の棍」を継承する。使用する棒は硬木類(樫、黒壇、クバ、檳榔など)で長さが6尺、演武線は四方八方の敵に対する攻防を想定する。技術的には「貫き技」、「突き技」、「連続受け攻撃」を多用するところに「徳嶺の棍」の特徴がある。



金城 政和

Masakazu Kinjo

流派/琉球古武道
空手歴/50年
段位/範士九段

演武予定 | 津堅砂掛の棍/棒対トンファーの約束組手

權術(エーク手)

砂掛け(砂カチ)又はエークディーともいう。武士達が島に渡って棒術を權に応用して開発された型の一種である。エークは方言名「イーク」、和名「モッコク」という木で造られている。硬く弾力性があり水に強いとされている。



蔵元 雅一

Masakazu Kuramoto

流派/剛柔流
空手歴/40年
段位/七段

演武予定 | 十三手(セーサン)/根基(カキエー)

東恩納寛量が持ち帰った伝承型の一つ。東恩納の師であるルーローが得意とした型といわれ、寛量は特に厳しくこの型の指導を受けたという。拳動数は比較的少ないながらも、動作の激しい型であり、鶴、虎といった獣拳の技法が伺える。



島袋 善俊

Zenshun Shimabukuro

流派/少林流
空手歴/38年
段位/六段

演武予定 | チントウ/約束組手、ナイファンチ

チントウの型は泊手の達人、松茂良興作から喜屋武朝徳に伝授された斜め演武線の型である。

跳び蹴りや一挙動の技が巧みに組み込まれた、機敏で軽妙な型は喜屋武朝徳の得意とした型だと言われている。



新城 清秀

Kiyohide Shinjo

流派/上地流
空手歴/57年
段位/九段

演武予定 | カンチン/三戦鍛え

上地流8つの形の7番目の形で四方八方の敵を想定し鯉の尾打ちから転身での蹴り技、鋭い踏み込みからの縦肘、小拳掬い受け、猫足からの平手掬い受け等、非常に変化に富んだ技が多く、緩急自在、精妙かつダイナミックな技法が連なり動く芸術性を兼ね備えた形である。



新城 成博

Narihiro Shinjo

流派/上地流
空手歴/50年
段位/八段

演武予定 | セーサン/三戦鍛え

上地流空手道の源流は龍虎鶴拳法が主体となりセーサンは鶴拳を象徴している。背刀拳から拇子拳、剣拳、いずれも実戦技法が多用に入り重厚な動作に鶴の一本足跳躍は華麗でパワー、スピード、バランスを伴った降発力を必要とする形である。



平良 貞行

Sadayuki Taira

流派/剛柔流
空手歴/50年
段位/教士八段

演武予定 | スーパーリンペイ/一本組手

壹白零八手と書いてスーパーリンペイと読み、別名ベッチュウリン(百歩連)ともいう。これは仏教から出た数で仏門である南派少林拳の各派は必ずこの型を「まどめの型」として持っている。現代剛柔流の独特の技法は総てこの型に網羅されているといわれ、サンチンに始まり、主要な攻防技がよどみなく巧みに織り込まれ、複雑精巧で、実践的で、華麗を極める現代剛柔流最高の型であると言われている。時に重厚に、時に軽捷に交差する技法の展開は力と美の功緻を極めるものであるといえよう。



平 武蔵

Musashi Taira

流派/琉球古武道

空手歴/24年

段位/錬士六段

演武予定 | 佐久川の棍(大)/棒対トンファーの約束組手

棒とは諸説ありますが、農具として使用していた天秤棒から発達してきたなどの説があります。棒は剣とちがって、そのどの部分も刀のように変化する千差万別の武器です。剣には、刃を敵に当てなければ斬れないという制限をもっていますが、棒には刃も柄もなく、突き、突き、切る、万能性をその六尺に秘めています。いわば剣と薙刀と槍の特質を備えているといえます。

トンファーは生活の中で使用していた、石臼(いしうす)を回す様子からヒントを得て開発されたという説があります。日本本土の古武道にはなく、全く沖縄独特の武器であります。古武道のいずれよりも理合(りあい)に富み、かつ複雑な技法の連続です。しかも長い物にでも間近の場合でも操作が便利なように作られています。



仲 程 力

Tsutomu Nakahodo

流派/上地流

空手歴/66年

段位/範士十段

演武予定 | サンセーリュウ

「三十六(サンセーリュウ)」この型は、八方に敵を想定しそれらに相対する動きは変幻自在な妙理となり、円と直線が交錯する演武線は華麗であり、それを縫うごとくして展開される攻防動作は精妙であり、踏み込みは壮烈なまでにダイナミックである。姿勢は自然立ち、前屈立ち、猫足立ち、据え腰等と変化に富み、動きは迅速緩慢相折衷し、力と早さと美が演武線で渾然一体となる様に正に動く芸術である。



比 嘉 康 雄

Koyu Higa

流派/小林流

空手歴/21年

段位/錬士六段

演武予定 | ソーチン(荘鎮)/約束組手、ナイファンチ

首里手形で古くから伝わる名型である。この型の特徴は、型の前半は、徐々として静かに基本動作を繰り返すので単調のようであるが、途中から突如として変化をみせ、最後に至っては中段押さえ受けから水月への貫手、大きく蹴ってさっと収めることとなっている。



八 木 一 平

Ippei Yagi

流派/剛柔流

空手歴/30年

段位/教士七段

演武予定 | 十八手(セーパイ)/一本組手

この型は開手型の一つである。特徴としては接近戦に対処する攻撃技、はずし技、解き技等、効果的な護身術が多く含まれていることである。動きの変化も多く、速い動きから突然ゆっくりとした力とムチミのある動作に移り再び速い動作に変化する。



八 木 明 人

Akihito Yagi

流派/剛柔流

空手歴/38年

段位/教士八段

演武予定 | 征遠鎮(セイエンチン)

遠くを制圧して鎮める、貫手、肘当て、補助受けから関節技への移行、騎馬立ち等の連続技も多く、見応えのある型である。



與 儀 克 也

Katsuya Yogi

流派/少林寺流

空手歴/20年

段位/六段

演武予定 | 五十四歩

五十四歩は、松村宗棍から伝授された型で、背刀受けからの掌底突きや、猫足構えからの連続貫手、鳥嘴拳による眉間への攻撃、羽交い締め入りの攻防など多彩な実践的攻防の型である。

空手の発祥を伝え、真髓を学ぶ
Convey the origins of karate, and learn its essence

沖縄空手会館

OKINAWA KARATE KAIKAN

特別道場(守禮之館) 面積/91㎡
Special Dojo



資料室 面積/598㎡
Archives



鍛錬室 面積/185㎡
Tanren Room



シャワールーム
Shower Room



道場施設 面積/1,278㎡
Dojo



駐車場
●普通車100台程度
●大型バス4台

研修室 面積/195㎡×2室
Seminar Room



沖縄空手会館

沖縄県豊見城市豊見城854-1

☎ (098) 851-1025 10月25日は空手の日

<http://www.karatekaikan.jp>



交通案内 Access

那覇空港からのアクセス Access from Naha Airport

車・タクシーをご利用の場合

那覇空港から約14分

When using a car/taxi

Approximately 14 minutes from Naha Airport

奥武山公園駅からのアクセス Access from Onoyama Park Station

車・タクシーをご利用の場合

奥武山公園駅から約5分

When using a car/taxi

Approximately 5 minutes from Onoyama Park Station

資料エリア入場料

	個人	団体
小学生及び中学生	¥100	¥80
高校生及び大学生	¥210	¥170
一般	¥310	¥250

利用案内

■ OPEN / 資料室 (Archive) AM9:00~PM6:00
道場施設 (Dojo) AM9:00~PM9:00

■ CLOSE / 毎週水曜日 (Every Wednesday) ・ 12/30~1/3

